



八松小だより

学校教育目標

「心豊かな人間性を養い、自ら学び
自ら行動する子どもを育てる」
合言葉「私ってすごい！みんなすごい
やったぞ！できたぞ！の声がいっぱい！」



2026年（令和8年）1月号

子どもたちの声に耳をすませて

校長 瀧谷 典子

新年あけましておめでとうございます。本年もどうぞよろしくお願ひいたします。

近年、「朝起きられない」「強いだるさが続く」など、体調の不調によって学校生活に困難を感じる子どもたちは、決して珍しくなくなってきました。

こうした状況を受け、私は先日、市の学校保健大会のオンデマンド講演を視聴しました。市の学校保健大会の研究発表や講演は、毎年、保護者の皆様にもご案内し、学校と家庭が共に学ぶ機会になっています。

今年の講師は、昭和大学保健管理センターの田中 大介氏。テーマは、「朝起きられないのは病気かもー 起立性調節障害の症状と学校や家庭における対応についてー」でした。

起立性調節障害は、見た目では分かりにくく、誤解されやすい病気です。しかし、決して珍しいものではなく、多くの場合、成長とともに回復していくことが多いこと、高校卒業頃には状態が落ち着く子どもも少なくないことを学びました。だからこそ大切なのは、回復までの時間を、どのように過ごすかだということです。

体調が思うようにいかない時期に、「自分は何もできない」「努力が足りないのではないかと感じてしまうことは、子どもの心に大きな負担を残します。

田中氏の講演で、特に心に残ったのは、子どもの声を丁寧に受け止め、支え続けることの大切さでした。

この考え方は、全米小児科学会が示している「アドボカシー（子どものために声を上げること）」の理念とも重なります。全米小児科学会では、子ども自身が言葉にしにくい困りごとや不安、苦しさや周囲の大人が気づき、代弁し、行動につなげていくことを、子どもの健康と成長を支える重要な柱として位置付けています。さらにアドボカシーガイドでは、子どもたちのウェルビーイングに影響を与えるものは、個人の問題だけでなく、社会、教育、環境、制度、考え方などの幅広い仕組みであると示されています。声を上げることは、一人で立ち向かうことではなく、子どものことを考える他の人たちの声に加わり、つながっていくことでもあります。その積み重ねが、子どもの健康のために、前向きで持続的な変化を生み出す力になると書かれていました。

私はこの考え方にとっても共感しました。多くの大人がそれぞれの立場で声をつなぎ、力を貸し合うことで、子どもたちの不安が、少しでも和らぐ環境をつくることのできるのではないかなと思うからです。

そして、このアドボカシーの理念は、日々子どもに向き合う私たち教員の営みそのものとも深く通じていると感じます。

また講演では、エンパワメント（力を蓄えること）を具体的な事例を通して説明されていました。体調が不安定で、これまで当たり前できていたことが難しくなる時期に、無理に元の状態に戻そうとするのではなく、好きなことに挑戦する、興味のある活動に取り組むなど、「自分で選び、やってみたいことに取り組む経験」が、子どもの力を育てるとのお話でした。こうした経験は、すぐに状況を変えるものではないかもしれませんが、「今の自分にもできることがある」「応援してくれる人がいる」と感じられることは、無力感を学習してしまうことを防ぎ、再び動き出す力を蓄えることにつながると学びました。

体調や気持ちが思うように整わない時期も、決して立ち止まっている時間ではありません。その時期に積み重ねた安心感や経験は、回復した後の人生においても、困難に向き合う力として生きていく可能性があります。お医者さん、保護者、学校の職員、そして友達。分かってくれる人の存在が、どれほど子どもを支えるか。家の外にも安心できる居場所や理解者がいることは、子どもにとって大きな力になります。

学校だけでできることには限りがあります。医療機関と連携し、保護者の皆様とつながりながら、子どもを真ん中に据えて支えていくことは、欠かせません。新しい年も皆様と手を携えて、子どもたちの声に耳をすませながら、子どもたちの心と体の健康を大切にしていきたいと思います。

なお、このオンデマンド講演は、1月19日（月）まで配信されています。まだご視聴されていない方は、「12月八松小だより」に記載している二次元コードからご覧いただけます。

1月の目標



3学期の目標

寒さに負けず体をきたえましょう。

生活目標

いっぱい思い出をつくろう

保健目標

かぜ・インフルエンザを予防しよう

給食指導の目標

給食にかかわる人を知ろう



1月の行事予定



書き初め展

【書き初め作品の鑑賞について】

子どもたちは、新たな気持ちで書き初めに取り組みます。1、2年生は硬筆、3年生以上は毛筆で書きます。完成した作品は表装し、各教室前の廊下などに展示します。保護者の皆様は、1月20日（火）から1月26日（月）までの放課後、15時30分～16時の時間帯に展示作品をご鑑賞いただけます。お子さんの作品とともに、他の学年やクラスの作品もぜひご覧ください。

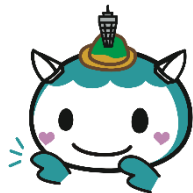
【新聞紙の寄付のお願い】

3年生以上の書き初めは、体育館において毛筆で行います。その際、床の保護のために多くの新聞紙を使用します。

近年は新聞を購読されていないご家庭も多いことから、ご家庭に新聞紙のストックが十分にある場合のみで構いませんので、ご寄付いただけましたら幸いです。無理のない範囲でのご協力で大丈夫です。集まった新聞紙は、書き初めの学習で大切に使用させていただきます。

【今年の書き初めの言葉】

- 1年生 「 ふじ山 」
- 2年生 「 大きなゆめ 」
- 3年生 「 友だち 」
- 4年生 「 明るい心 」
- 5年生 「 新しい風 」
- 6年生 新年の抱負や意気込みを四字熟語で表現します



配付した「八松小だより」の通りです

【2月の予定】

第66回 卒業式

令和7年度卒業式は、令和8年3月19日（木）に行います。卒業生の保護者の参加につきましては、各家庭2名までとさせていただきます。在校生の兄弟姉妹の参加は、会場の都合によりご遠慮ください。日程の詳細については、後日、学校から文書で6年生の保護者あてにご案内します。

在校生は卒業式には参加せず、1年生から5年生は、3月19日（木）を臨時休業とします。

なお、在校生とのお別れの機会については、別途設ける予定です。

6年生が卒業までの日々を大切に過ごし、胸を張って巣立っていけるよう、応援していきます。



不審者対応訓練を実施しました

12月10日(水)、不審者が校内に入った場合を想定した対応訓練を行いました。

訓練では、下降音が2回鳴り、合言葉が放送されたら「不審な人が学校内に入った合図」であること、その際には放送をよく聞き、先生の指示に従い、教室の外に出ずに鍵をかけて静かに待つことが、命を守る行動であることを子どもたちに伝えました。

訓練当日、子どもたちは廊下の様子を見に行くこともなく、教室内で落ち着いて静かに待つことができました。一人ひとりが真剣に取り組み、日頃から「話を聞く」「合図を守る」「考えて行動する」ことの大切さが生かされた訓練となりました。

学校では、今後もこのような訓練を通して、子どもたちが自分の命を守る行動を身に付けられるよう取り組んでまいります。

各ご家庭でも登下校中や放課後に、通学路や公園などで不安なことや怖いことがあったときには、すぐに近くの大人に助けを求めよう、お子さんとお話しいただければと思います。

2年生生活科 町たんけん 北町へ

12月に北町のお祭りの話を中心に、地域の昔の話を伺い、山車を見学させていただきました。現在も町内会でお囃子を伝承するなど、地域全体で子どもたちを育ててくださっています。

檜の木でできている山車には、十二支や七福神の彫り物が施されています。

この山車は、明治10年(今から約150年前)に、腰越の宮大工さんが作ってくださったそうです。当時、辻堂まで皆で引っ張って運んできたそうです。購入した金額は300円で、今でいうと家が一軒建つほどの価値に相当するそうです。

実際に子どもたちは山車に乗り込み、全員で太鼓を叩かせていただきました。

最後に、立派な山車を大人4人の力でくるくと回す様子を見て、子どもたちは感激していました。地域の皆様、本当にありがとうございました。



ロボテラスへ

11月28日(金)、12月5日(金)に、神台公園近くのロボテラスへ見学に行きました。プログラミングカーやロボットの操作体験など、4つのプログラムを体験させていただきました。

地域で大切に守られてきたものに触れるとともに、人を幸せにするための新しい技術に触れ、考える町たんけんとなりました。

集会活動

12月17日(水)集会委員会が企画運営し、全校児童で集会活動を行いました。

4~5人の異学年の児童で縦割りに編成されたグループごとに校内を回り、各ポイントでミッションやクイズに挑戦しました。

活動の中で、上級生が下級生に声をかけたり、グループのメンバーと協力したりする姿がたくさん見られました。

また、クイズと一緒に答えたり、できたことを喜び合ったりするのびのびとした子どもらしい表情も印象的でした。

この活動に向けて、集会委員会の児童は時間をかけて準備を進めてきました。当日は、みんなが楽しんでいる様子を見て、やりがいや達成感を感じている様子うかがえました。

学年を越えたふれあいとともに、支える側の思いも育つ、あたたかな時間となりました。



3年生 消防署明治出張所見学

11月26日(水)、3年生が消防署明治出張所を見学しました。

はじめに、火災の原因や出火しやすい時期、時間帯による出動の多さなどについて教えていただきました。その後、仕事部屋や仮眠室、トレーニングルームなどの施設を見学し、消防士の方々がどのような環境で働いているのかを知ることができました。

車両見学では、大型ブローカー車を見せていただきました。大型ブローカー車は、火災現場などで建物の中にたまった煙を外に出すための車両で、子どもたちは実際に強い風を浴びる体験もしました。その迫力に驚きながら、消防の仕事の大変さや工夫を感じた様子でした。

また、見学の途中で、出動していた消防車が戻ってくる場面に立ち会いました。今回の見学を通して、子どもたちは、火事を未然に防ぐことの大切さへの意識を高めるとともに、地域の人々の安心・安全のために日々仕事をしてくださっている消防士の方々への感謝の気持ちを持ち、理解を深める貴重な機会となりました。



5. 6年生 人権移動教室 ～SNS・インターネットの使い方～

12月22日(月)、外部講師をお招きし、5、6年生を対象に、外部講師をお招きして、SNSやインターネットの使い方について学ぶ授業を行いました。

いじめやトラブルから自分や他人を守ることを主な目的とした講座です。

講座後の振り返りでは、子どもたちから多くの気づきの声が聞かれました。

「ともだちの許可を得ずに、スクリーンショットを別の人に送ってはいけないということを、知らずにやってしまっていた」という声が多く上がり、驚いている様子も見られました。

「知らなかった」ことが、相手を傷つけてしまう行動につながる可能性があることを、あらためて実感したようです。

また、「グループラインで『バカ』という言葉が書き込まれたとき、どうするのがよいか」という場面についても考えました。

すぐにグループから退出させるという意見もありましたが、「何も返さず、次の日に会ってから『どうしてあんなことを書いたの?』と理由を聞き、直接伝える方が、よりよい場合もある」という考え方が示されました。

その理由として、「間違えて送ってしまった可能性もあるから」という説明があり、子どもたちは納得した様子でした。

文字だけのやりとりでは、相手の気持ちや状況が見えにくいこと、だからこそ慎重に考えることの大切さを学ぶ時間となりました。

今回の学びを通して、子どもたちは

「すぐに反応しないこと」

「相手の立場を考えること」

「困ったときは一人で抱えず、身近な大人に相談すること」

の大切さを感じ取っています。

今後も、子どもたちが安心してSNSやインターネットと向き合えるよう、継続して、繰り返し指導していくことが大事だと感じました。

【ご家庭へのお願い】

SNSやインターネットでの出来事は、「これくらいなら大丈夫かな」「どう話したらいいかわからないな」と感じて、子ども自身が言葉にしにくいことがあります。

困ったことがあったときには、一人で抱え込まず、家庭や学校など身近な大人に相談できるよう、引き続き見守りと声かけをお願いいたします。



2学期終業式 ～一人ひとりの学びと成長～

12月24日(水)、2学期の終業式を行いました。今年を振り返りながら、私から「びっくりしたり、こわくなったり、こまったりしたときには、どうすることが大切だと思いますか」と問いかけました。

子どもたちは話を聞きながら、それぞれが自分なりに考えて、「落ち着く」「だれかに言う」「警察に言う」などつぶやく様子が見られました。

私からは、「すぐに答えが出なくてもいいので、人に話してみる。だれかと一緒に考えることで、気持ちが落ち着いたり、助けられたりすることがある」という話をしました。

3年生の児童代表4名が、2学期を振り返って、発表しました。

算数では、掛け算の筆算が難しく感じられたときに、友だちが教えてくれたことで理解が深まり、「友だちと一緒にがんばることで、できることが増えた」と話してくれました。

体育では、ベースボール型ゲームに取り組み、攻撃の場面でバットを思いきり振って得点できたことが楽しかったと振り返りました。友だちと声を掛け合いながら取り組んだ経験が、印象に残っている様子でした。

2年生との交流会では、本の紹介を担当しました。相手に伝わるように文章を工夫してまとめ、わかりやすく紹介できたことを自信につなげ、「3学期にも生かしたい」と前向きな気持ちを語ってくれました。

運動会のダンスについては、初めて見たときは難しそうと不安もあったけれど、海を表現するために波のように布を優雅に振る動きを練習し、本番ではたくさんの拍手をもらえてうれしかったと話してくれました。

一人ひとりの言葉や姿から、学習や行事、友だちとの関わりの中で、たくさんの思い出と学びを得たことが伝わってきました。うまくいったことも、難しかったことも、すべてが子どもたちの成長につながっています。

冬休みは、心と体をゆっくり休める大切な時間です。新しい年、3学期に向けて、また一歩ずつ歩みを進めていけるよう、子どもたち一人ひとりを見守っていきます。



藤沢市子どもをいじめから守る条例 リーフレットについて



市では、子ども一人ひとりが安心して過ごせるよう、『いじめから子どもを守る条例』を制定しています。保護者の皆様にも知っていただきたい内容が、リーフレットにまとめられています。二次元コードからご覧ください。

